

## ●技術情報

### Q&A

---

#### [6] 作物別施用法（野菜類）

---

**Q6-4-23** フキに対する石灰窒素の施用方法を教えてください。

**A6-4-23** 石灰窒素の緩効性の肥料効果を利用した施肥法が、フキの産地で普及されています。

宮城県のフキの産地では、施肥設計例として根株の植え付け(9/中～10/中)予定の2週間以上前に、10a当たり石灰窒素50kg全面に散布し完熟堆肥 3,000 kg、苦土石灰 300 kg、鶏ふん600 kg、有機入り化成肥料 100kgを土とよく混ぜておく方法がすすめられています。

しかし、土壌病害が激しく発生するところでは、露地の太陽熱・石灰窒素法をお勧めします(Q4-4参照)。

7月中旬に10a 当たり石灰窒素200 kg、鶏ふん1,000 ～2,000 kgを用いて露地太陽熱・石灰窒素法を約 15 日間実施し、その後 15 日間ぐらい湛水します。

表 6-4-18 フキに対する露地太陽熱・石灰窒素法の白絹病防除効果

	発病株数/10m <sup>2</sup>	収量比
臭化メチル	0	215
露地太陽熱・石灰窒素法	0	217
無処理	5.21	100

備考) 調査日は9月24日

大阪泉南地区では石灰窒素を基肥に施用するだけでなく、露地太陽熱・石灰窒素法を導入することにより1,300 ～ 1,500 kg/10 aの収量を上げています。